

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007～2008

課題番号：19830059

研究課題名（和文） 民主化支援活動の総合的考察

研究課題名（英文） Comprehensive study on democracy assistance

研究代表者

杉浦 功一（SUGIURA KOICHI）

和洋女子大学・人間・社会学系・講師

研究者番号：70453470

研究成果の概要：

本研究は、国際的な民主化支援活動がどのような政治過程を経て行われたのか、また、いかに各国の民主化に影響を与えているかを検証した。本研究では、国際的な民主化支援活動の全体像を把握すると共に、できるだけ多くの事例を詳細に調査し、被支援国政府とその市民および支援する国際的アクターはどのように行動し、相互間でやり取りを行ったのか、最終的に民主化にどのような影響がもたらされたのかを具体的に明らかにすることを試みた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	790000	0	790000
2008年度	900000	270000	1170000
年度			
年度			
年度			
総計	1690000	270000	1960000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：民主化、民主化支援、国際援助、民主主義

## 1. 研究開始当初の背景

冷戦終結以降、国際的な選挙監視団など民主化支援活動は急増した。それに合わせて、国際法、比較政治学、国際関係論、国際援助の実務など幅広い分野で、民主化支援活動が研究されるようになった。しかしながら、いずれの分野でも民主化支援活動は副次的に扱われ、その複雑な政治過程および民主化への影響、また国際関係全体に与える意義が十分に解明されてきたとはいえない。特に日本では、最近では民主化支援への関心が高まりつつものの、これまで民主化支援に関する学

術的研究は限られてきた。また、既存の研究の多くがアメリカの活動に焦点を当てており、その研究結果の一般性という点で限界がみられる。このように、民主化支援の研究は、その学術上・実際上の必要性にもかかわらず、十分には行われてこなかった。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究の目的は、第1に、民主化支援活動をめぐる支援側と対象国間及び支援側内部の協調・対立関係の要因を、多くの

具体的事例に即して明らかにすることである。第2に、上記とも関連するが、さまざまな民主化支援活動が各国の民主化に具体的にどう影響を与えてきたかを解明することである。第3に、それらの考察を踏まえて、状況がさまざまに異なる民主化の事例に対して国際社会はどのように関与を行えばよいか、望ましい民主化支援活動を具体的に提言することである。最後に、グローバル・デモクラシーの議論と結び付けて、民主化支援活動とそれをめぐる政治が国際関係全体に与える影響と意義をまとめることである。

### 3. 研究の方法

そもそも「民主化」について、定期的な複数政党制に基づく選挙や関連する人権の遵守、司法の独立など、国連の総会決議を含む民主化に関する国際規範で広く国際的に合意された民主主義体制の定義を採用した。

その上で、まず、各事例について国際的行為主体によってどのような民主化支援活動が行われたのかを調べ、その活動を一定の枠組みに当てはめて分類した。

次に、支援を行う各国際的行為主体間はどうの関係であったのか、対象国政府はどのように対応したのか、その政治過程を検証する。さらに、民主化支援活動は、民主化にどのような効果をもたらしたのかを調べた。民主化の程度の測定については、近年発達しつつある枠組みを利用した。最後に、具体的な事実関係について情報を集めて、民主化支援活動と民主化の因果関係を調べた。

### 4. 研究成果

#### (1) 初年度

初年度はまず、国家の民主化への支援活動について、各国政府や国際機構、NGOなどの国際的行為主体によるさまざまな民主化支援活動に関する資料を収集して、その全体像を明らかにすることを試みた。まず、国内で民主化（支援）に関する情報と資料の収集を行った。また、日本国内の民主化支援に関するNPO作りをフォローした。さらに、2008年2月から3月にかけてはアメリカで調査を行った。まず、ニューヨークの国連本部を訪問し、国連民主主義基金（UNDEF）および国連日本代表部などで民主化支援に関する情報収集を行った。サンフランシスコでは、カルフォルニア大学バークレー校で民主化支援に関連する情報の収集を行った。

これらの研究の成果については、2008年度の前半にいくつかの学会で報告を行った。

そのほかに、2007年度中には、民主化支援の提供者であり同時に対象でもある国家が、グローバル化の中でいかに変容しているかについて考察した。その研究成果として岩崎正洋・坪内淳編著『国家の現在』所収の「グローバル化と国家」を2007年12月に公表した。

#### (2) 2年目

2年目であり最終年度である本年度は、まず、国家の民主化への支援活動について、各国政府や国際機構、NGOなどの国際的行為主体によるさまざまな民主化支援活動に関する資料を引き続き収集し分析した。そのために、2008年9月には、イギリスのサウサンプトン大学やドイツのフランクフルト大学で情報の収集及び意見交換を実施した。また、本年度も支援側の行為主体の一つである日本の民主化支援活動に注目し、特に活動がはじまったばかりの民主化支援のNPO法人の活動をフォローした。また、当該年度は、民主化支援の事例の数を増やして検証作業を続けた。その上で、それまでの事例の検証を踏まえて、まず民主化支援活動はどのような政治過程を経て実施されるのか、そこではどのような要因が働いたのかをまとめ一般化を試みた。また、どのような民主化支援活動が、どのような状況下にある国家に対して有効となりうるのか、また多様な行為主体がいる中でどのように実施すればよいか、知見をまとめるための作業を進めた。

前年度からの作業と合わせた以上の研究の成果の一部として、まず2008年6月に日本国連学会で「国連の民主化支援体制とその課題—UNDEFの活動を中心に」という題で報告を行い、同月には日本平和学会で「国連にとっての民主化への課題」という題で報告を行った。同年10月には、日本平和学会の学会誌『平和研究』に「国連平和活動における民主化支援の考察—デモクラティック・ピースの構築へ向けて」という論文を掲載した。2009年3月には、大学の紀要に論文「国連の民主化支援体制とその課題—国連民主主義基金（UNDEF）の活動を中心に」を公表した。

#### (3) 研究成果のインパクトと今後の展望

数少ない民主化支援の専門的研究として、民主化支援活動の全体像や民主化支援と平和活動との関係を明らかにするなど、一定の成果を収めることができた。現在研究の成果を著書にまとめているところである。それによって、国際的な民主化支援活動に関する総合的な考察にひと段落をつけたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

①杉浦功一「国連の民主化支援体制とその課題—国連民主主義基金 (UNDEF) の活動を中心に」『和洋女子大学紀要』(人文系編)、第48集、2009年3月、127-142頁、査読なし

②杉浦功一「国連平和活動における民主化支援の考察—デモクラティック・ピースの構築へ向けて」『平和研究』(日本平和学会)、33号、2008年11月、115-134頁、査読あり

[学会発表] (計 2件)

①杉浦功一「国連にとっての民主化への課題」日本平和学会 2008年度春季研究大会、2008年6月14日、於東京女子大学

②杉浦功一「国連の民主化支援体制とその課題—UNDEFの活動を中心に」日本国連学会 2008年度研究大会、2008年6月1日、於広島修道大学

[図書] (計 1件)

①杉浦功一「国家とグローバル化」岩崎正洋・坪内淳編著『国家の現在』芦書房、2007年12月、193-223頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉浦 功一 (SUGIURA KOICHI)  
和洋女子大学・人間・社会学系・講師  
研究者番号：70453470

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

